

国民健康保険由仁町立診療所

島田啓志

所長



☎ 0123-83-2031

🌐 yuni-clinic.com

🏠 北海道夕張郡由仁町馬追1番地の1

### ビジョン

要介護認定を受けたその日から、24時間誰かが駆けつけてくれる安心が、あたりまえになる。そんな地域・在宅ケアを、由仁町から始めたい。

人口約4,500人、高齢化率44%というこの小さな町に、入院・救急・在宅医療の三機能をひとつの拠点で担う、全道的にも稀有な医療機関がある。国民健康保険由仁町立診療所だ。一般病床19床を備え、24時間対応の救急、そして「断らない在宅医療」を掲げて訪問診療・訪問看護・訪問リハビリを一体的に展開している。「どんなに小さな町でも、良い医療をあきらめない」——そう語る所長の島田啓志医師に、地域に根ざした取り組みと、住民とともに描く「由仁モデル」の構想について伺った(2026年5月取材)。

## 入院・救急・在宅の「三刀流」——北海道郡部で唯一の体制

### まず由仁町立診療所の特徴を教えてください。

当院は2018年3月に、57床の病院から19床の有床診療所へ転換しました。一般19床の入院機能、救急告示診療所としての24時間救急対応、そして在宅医療。この三つの機能をひとつの拠点で担っているのは、北海道の郡部では当院だけです。私たちはこれを「三刀流」と呼んでいます。

直近1年の実績は、訪問診療回数2,334回、臨時往診回数418回、訪問看護回数680回、在宅看取り31名。現在、在宅医療の利用者は約166名にのぼります。救急もWalk-in 253人、救急車135台を受け入れました。数字だけ見れば都市部の大病院には及びません。

けれども、外来で診ていた方の入院を自分たちで担い、そのまま在宅に戻し、最期まで看取る。それを同じスタッフが、同じ建物の中でやり切る。

この一貫性こそが、小さな町だからこそ実現できる医療の姿だと感じています。

「小さな町だからこそ、深い連携と機動力が可能になる」——それが現場の実感です。



## 「契約者」から「地域全体」へ——ひらかれた在宅医療の再定義

### 独自の取り組みである「診療所駆けつけサービス」とはどのようなものですか。

従来の在宅医療は、訪問診療を契約した患者さんだけに提供される、いわば「閉じた仕組み」でした。しかし制度の枠にとらわれていると、独居高齢者の突発的な体調不良には対応できません。

由仁町でも、夜間に具合が悪くなくても受診手段がない、家族も近くにいない、という現実が確かにありました。電話の向こうで困っている声を聞きながら、「訪問診療利用者ではないの



松村諭 由仁町長

でどうかして来院してください」と返すことに、強い違和感がありました。そこで2020年、警備会社のALSOKと連携して「診療所駆けつけサービス」を開始しました。町内に住む80歳以上の高齢世帯はALSOKの緊急通報装置を設置でき、ボタンを押すとガードマンが駆けつけ、必要に応じて24時間の往診につながります。当院の受診歴は問いません。一度も当院にかかったことのない方でも利用できる——これが何より大きな特徴です。在宅医療を特定の契約者のためのサービスではなく、地域全体のセーフティネットとして再定義する。これが私たちの目指す「ひらかれた在宅医療」です。「契約しているから守られる」のではなく、「この町に住んでいるから守られる」。そんな当たり前を、医療の側から築き直したいと考えています。

## 副主治医制と「おたがいさまネット」——小規模医療機関を支え合う仕組み

他にも独自の取り組みがあるそうですね。

はい。在宅医療を担う診療所のほとんどは医師1名体制です。特別養護老人ホームの配置医も、1名で看取りを担うことが多い。1人の医師が24時間365日、365日対応するには、どうしても限界があります。医師が倒れば、その地域の在宅医療そのものが止まってしまう。これは由仁町だけでなく、全国の小規模自治体に共通する深刻な課題です。

そこで2025年、空知南部医師会が北海道の事業を活用して「おたがいさまネット」を立ち上げました。

主治医が不在のときに、近隣の在宅医療機関の医師が代わりに対応する、いわば副主治医制度です。2025年4月からの1年間で、4医療機関から依頼を受け、2医療機関が連携医として対応し、70単位（1単位12時間）の利用がありました。利用実績そのものが、この仕組みの必要性を物語っていると感じています。

加えて2021年からは「南空知バイタルリンク」という多職種情報共有システムも医師会主導で運用しています。医師、看護師、ケアマネジャー、薬剤師など多職種が、患者さんの情報をリアルタイムで共有する仕組みです。私は、従来の“連携”という枠組みだけでは足りないと考えています。

職種の壁を越えて、地域の中で“統合”されたときにこそ、本当に質の高い地域医療が実現できる。それが、私の揺るがない信念です。



## 住民との共創——「最期まで由仁びと」フォーラムの実践

2025年11月には「北海道在宅医療推進フォーラムin 由仁」を開催されました。

医療者からの一方的な説明ではなく、住民との共創を重視したフォーラムです。

住民有志団体「由仁びとクラブ」と協働し、寸劇と音楽・ダンスで、がん告知から自宅療養、看取りまでの流れを表現しました。看取りという重いテーマを、音楽やユーモアを交えて温かく伝えたい——そんな思いを込めました。

演じたのは住民の皆さん自身です。医療や介護の専門職と、町に暮らす人たちが、ひとつの舞台の上で「最期まで由仁びと」というメッセージを形にしていきました…



続きはQRコードからアクセスしてください → → →